

# 全苗連だより

Vol. 109 (3月号)

令和5年3月24日

発行：全国山林種苗協同組合連合会

Tel.03-3262-3071 Fax.03-3262-3074

## 令和4年度林業用種苗需給連絡協議会の概要

- ・苗木需要は6千2百万本台と前年度から僅かに伸びる
- ・コロナ禍が続く中、過半数を超える4地区で対面開催（3地区は書面による開催）。

令和4年度の地区別林業用種苗需給連絡協議会は、コロナウイルス感染症対策の観点から関係者が一堂に会する形式で開催された会議と書面形式となったものが混在しての開催となりました。

近畿地区は11月17日に和歌山市で、九州地区は11月24日に佐賀市で、四国地区は12月21日に松山市で、関東地区は1月27日東京都内でそれぞれ開催され、それ以外は書面による開催となり、北海道・東北地区は岩手県が、東海・北陸地区は福井県が、中国地区は岡山県がそれぞれ主催して行われたところです。

会議では、種子・穂木や山行苗木の移出・移入の可否並びに広範囲な需給調整のあり方、コンテナ苗生産の取組み状況、特定母樹・花粉症対策品種の生産見込み、優良苗木の安定供給に向けた生産体制支援対策及び担い手対策等についての国・都道府県への要望事項等を議題に情報交換や意見交換が行われました。

需給の動向について、第1表に地区別、第2表に樹種別の需給見通しを掲載しました。

第1表 地区別の山行苗木の需給見通し(令和5年3月8日現在)

(単位：千本)

地区	需給見通し (R4秋～R5春)			需給見通し (R5秋～R6春)		
	生産量	需要量	過不足	生産量	需要量	過不足
北海道	19,666	17,288	2,378	20,275	21,150	△ 874
東北	11,741	9,215	2,526	11,291	9,371	1,920
関東	7,307	6,836	471	6,710	6,301	409
中部	5,448	5,264	184	5,808	5,598	210
近畿中国	7,430	5,889	1,541	7,132	5,596	1,536
四国	2,795	2,624	171	2,670	2,582	88
九州	16,888	15,673	1,214	17,129	14,301	2,827
計	71,275	62,790	8,486	71,016	64,899	6,117

第2表 樹種別の山行苗木の需給見通し(令和5年3月8日現在)

(単位:千本)

樹種		需給見通し(R4秋～R5春)			需給見通し(R5秋～R6春)		
		生産量	需要量	過不足	生産量	需要量	過不足
スギ	総数	31,464	27,375	4,089	31,229	25,872	5,357
	(うちコンテナ苗)	19,513	16,467	3,046	19,174	15,277	3,898
	うち花粉対策	12,676	10,516	2,159	12,844	9,442	3,402
	(うちコンテナ苗)	7,619	6,116	1,503	7,311	5,184	2,127
ヒノキ	総数	8,970	7,848	1,122	8,648	7,365	1,283
	(うちコンテナ苗)	5,136	4,543	593	4,877	4,224	653
カラマツ	総数	18,828	18,976	△ 148	19,466	20,660	△ 1,194
	(うちコンテナ苗)	5,088	5,469	△ 380	6,111	6,585	△ 475
クロマツ	総数	1,138	488	650	680	357	323
	(うちコンテナ苗)	835	333	502	382	222	159
小計	総数	60,400	54,687	5,713	60,023	54,254	5,768
	(うちコンテナ苗)	30,571	26,812	3,760	30,544	26,308	4,236
その他	総数	10,876	8,103	2,773	10,993	10,645	348
	(うちコンテナ苗)	1818	1,800	19	1,800	2,232	△ 432
計	総数	71,275	62,790	8,486	71,016	64,899	6,117
	(うちコンテナ苗)	32,390	28,612	3,778	32,344	28,540	3,804

なお、都道府県ごとの数値等は、全苗連ホームページの会員向けページに掲載してありますのでそちらをご覧ください。

概況としては、全国的には苗木の余剰傾向がカラマツを除き発生しています。一昨年の豪雨災害、日照不足または干害等の影響は昨年度まで苗木不足傾向を北海道、関東、四国、九州地区にもたらしましたが、今年度は気象害等による大きな生育不良もみられず、堅調な供給が期待されています。

樹種ごとに見てみると、スギについては普通苗、コンテナ苗とも不足傾向が東北、関東の一部地域、北陸から中国地方の一部地域、四国、九州の一部地域にみられます。それぞれの地区毎に全体として見ると、概ね生産量が需要量を上回っており、域内または隣接区域との調整を行うことで需給のバランスが図られる見通しです。

ヒノキについては、不足傾向が関東から中部、東海の一部、中国から四国、九州の一部地域にみられます。

カラマツについては、不足傾向が東北、関東の一部及び中部地区でみられます。

一方、コロナ禍の最中に発生した原木不足は、いわゆる「ウッドショック」を引き起こしたところですが、ここに来てやっと落ち着いてきたところです。その間、国産材の需要先としてまず南九州で伐採が進行し、さらには北関東から南東北、北東北へと広がりました。これにより当該地域での苗木の需要量が増加したところです。

また、令和3年6月に策定された「森林・林業基本計画」に示された、今後の森林・林業施策の指針では、森林・林業・木材産業の持続性を向上させながら成長発展させることとしています。

具体的には、優良種苗の安定的な供給、造林適地の選定、造林の省力化・低コスト化はもとより、森林・林業・木材産業者においては、自らの短期的な利益のみを追求するのではなく、国土と自然環境の根幹である森林の適切な管理、森林資源の持続的な利用を確保すべく、効率的なサプライチェーンを構築して相互利益を拡大しつつ、再造林につなげるとの視点を共有し努力することとしています。

加えて、令和3年3月には「森林の間伐等の実施の促進に関する特別措置法」の一部を改正し、同法に基づく間伐や優良種苗の増殖等の支援措置の期限を延長し、エリートツリー等を用いて再造林を促進する措置が新設されました。

造林適地の選定の観点からは、これまでの特定母樹の増殖に関する規定に加え、新たに、エリートツリー等を積極的に用いた再造林を進める特定植栽促進区域の設定などの仕組みが盛り込まれました。また、これに併せて、林業種苗の表示の明確化や種苗の需給の広域化、予約生産の拡大等をさらに進めることとしているところです。

以上のように、森林資源の持続的な利用と保続培養の観点からも、再造林を確実に進めることとなりました。これらを踏まえ、主伐跡地の再造林の実施が確実になされるか注目する必要があります。

各苗組におかれましては都道府県、森林管理局署、森林総合研究所森林整備センター、都道府県森連等との連携を密にして適切な対応をとるようお願いいたします。

## (技術情報)

# 令和4年度林木育種成果発表会(主催；国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター)が開催されました

国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センターより寄稿されましたので、紹介します。

令和5年2月8日(水)、令和4年度林木育種成果発表会を開催しましたので、その概要をご紹介します。

今年度は全国から多くの方にご参加いただけるようオンラインでの開催とし、国、都道府県、民間企業や研究所等から、約270名の方の申込みがありました。

当日は、宮崎大学農学部森林緑地環境科学科の雫子谷佳男教授から、「これからの木材生産と林木育種への期待」と題した特別講演、また、山形県森林研究研修センター研究企画部の渡部公一部長から、「雪国山形の林木育種の取組」と題した特別報告をそれぞれいただきました。

また、林木育種センター・森林バイオ研究センター・育種場の研究者から以下の発表を行いました。



◎ 特別講演	これからの木材生産と林木育種への期待	宮崎大学 農学部 教授 雫子谷 佳男
◎ 特別報告	雪国山形の林木育種の取組	山形県森林研究研修センター 研究企画部 部長 渡部 公一
◎ 成果発表 (林木育種センター・育種場・森林バイオ研究センター)		
令和4年度の品種発表	育種部 育種第一課 育種調査役 山野道 大祐 育種部 育種第一課 産種技術研究室 室長 平尾 克士	
育種の効率化・高速化に向けた針葉樹4種のゲノム基盤の構築	北海道育種場 育種課 育種研究室 室長 宮岡 剛	
育種サイクルの短縮に向けたトドマツの早期選抜戦略の構築	東北育種場 育種課 育種研究室 主任研究員 矢野 慶介	
東北地方における早生樹の増殖技術の高度化と実用化への取組	徳島育種部 産種調査課 産種育成研究室 主任研究員 松本 浩子	
薬用樹木・早生樹候補としてのキハダの収集・評価	アシアハイブリッドクローン品種創出の基盤試験 - 玉子ケリシリーズ株式会社との10年間の取組 -	
薬用樹木カネカスラの栽培・生産・利用に向けた技術開発	森林総合研究所 森林バイオ研究室 室長 小島 賢一	

※発表者については、変更となる場合があります。

主催：(国研) 森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター

お問合せ先：育種企画課 森研・森本  
TEL：0294-39-7002  
FAX：0294-39-7306  
E-mail：ksusy@frc.affrc.go.jp

申込方法等詳細はWebサイト：<https://www.frc.affrc.go.jp/frcresearch/news/2022/4/feb4thppokkai.html>にてご覧ください。

○令和4年度の品種開発

育種部 育種第一課 育種調査役 山野邊 太郎

○育種の効率化・高速化に向けた針葉樹4種のゲノム基盤の構築

育種部 育種第一課 基盤技術研究室長 平尾 知士

○育種サイクルの短縮に向けたトドマツの早期選抜戦略の構築

北海道育種場 育種課 育種研究室長 花岡 創

○東北地方における早生樹の増殖技術の高度化と実用化への取組

東北育種場 育種課 育種研究室 主任研究員 矢野 慶介

○薬用樹木・早生樹候補としてのキハダの収集・評価

遺伝資源部 探索収集課 分類同定研究室 主任研究員 稲永 路子

○アカシアハイブリッドクローン品種創出の実証試験

－王子グリーンリソース株式会社との10年間の取組－

指導普及・海外協力部 西表熱帯林育種技術園長 千吉良 治

○薬用樹木カギカズラの栽培・生産・利用に向けた技術開発

森林バイオ研究センター 森林バイオ研究室長 小長谷 賢一

特別講演の雉子谷教授からは、低炭素社会を目指して木材利用を拡大していく中で、より高いレベルの材料性能をもつ構造用材の生産が林業に求められることから、林木育種は成長の早さを基本としつつ、今後は材質育種の重要性が増してくること、そのため、さらに材料性能にも優れた造林木の育種に期待したいとお話がありました。

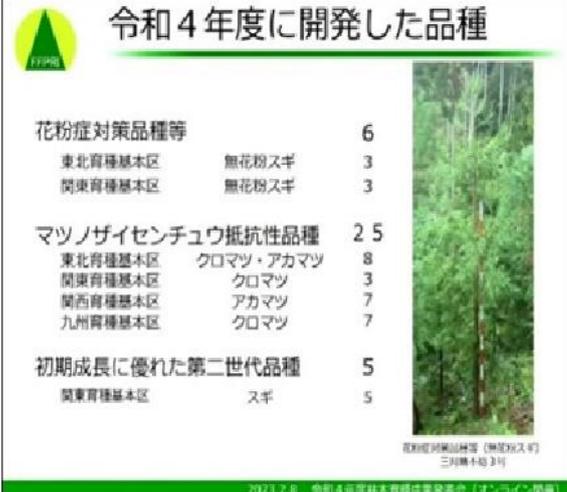
特別報告の渡部部長からは、積雪が多い山形県では、スギの雪害抵抗性育種に力を入れてきたこと、近年では、少花粉スギ、無花粉スギ、特定母樹などの新たなニーズに対応するための取組についてご紹介いただきました。

また、当センター研究者の発表概要は次のとおりです。

山野邊育種調査役から、令和4年度の品種開発について説明し、今年度は36の品種を開発したこと、そのうち、複数の研究機関と共同で無花粉スギ6品種を開発したことを発表しました。

平尾基盤技術研究室長から、カーボンニュートラルの実現に向けて、炭素貯留能力に優れたスギや早生樹種等を早期に選抜できるようにするための技術開発等に必要なゲノム情報について、他機関と共同で4樹種のゲノムの解読に成功したことについて発表しました。

花岡育種研究室長から、従来、トドマツの次世代精英樹の選抜は30～40年次の調査結果を基に行われているが、今回、これを15年次程度まで縮めることが可能となったことについて紹介しました。



**令和4年度に開発した品種**

<b>花粉症対策品種等</b>	<b>6</b>
東北育種基本区 無花粉スギ	3
関東育種基本区 無花粉スギ	3
<b>マツノザイセンチュウ抵抗性品種</b>	<b>25</b>
東北育種基本区 クロマツ・アカマツ	8
関東育種基本区 クロマツ	3
関西育種基本区 アカマツ	7
九州育種基本区 クロマツ	7
<b>初期成長に優れた第二世代品種</b>	<b>5</b>
関東育種基本区 スギ	5

2023.2.8 令和4年度林木育種成果発表会（オンライン開催）

山野邊育種調査役の発表

矢野主任研究員から、東北地方に適した早生樹候補であるオノエヤナギとユリノキについて、優良個体の選抜やクローン増殖に関する成果の紹介を行いました。

稲永主任研究員から、薬用樹であり、早生樹の候補であるキハダについて、林業樹種として植栽するための基礎的な情報を蓄積するため、全国に設置した試験地から得られた環境適応性の評価等について発表を行いました。

千吉良園長から、西表熱帯林育種技術園で開発したアカシア属の効率的な人工交配技術を用いて、優良なクローン品種を創出するための取組を共同研究パートナーと10年間にわたりベトナムで実施してきた概要の紹介を行いました。

小長谷室長から、国内に自生する薬用樹木であるカギカズラの苗木の増産法や栽培・収穫・加工調整法の開発、国産生薬や未利用資源である葉を原料としたお茶の試作等の取組について紹介しました。

今年度も多くの方々にご参加いただきました。

林業の成長産業化、地球温暖化対策、花粉症発生源対策などについて、林木育種に対する社会的ニーズが益々高まってきています。今後も更なる広報活動に努め、より多くの皆様に当センターの研究成果をお届けできるよう取り組んでまいります。

会員の皆様のご参加を心からお待ちしております。

(文責;国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター)



矢野主任研究員の発表

## (訃報)

全国山林種苗協同組合連合会元会長 太田清藏儀

3月20日に永眠いたしました

ここに謹んでお知らせ申し上げますとともに生前中賜り

ましたご厚誼に心より御礼申し上げます

ご遺族のご意向を尊重して、原文のまま掲載いたします

### 訃報

父 太田 清藏 儀

三月二十日行年94歳の長寿を全うし旅立ちました。

葬儀はごく内輪にて相済ませましたのでお知らせ致します。

尚、故人の遺志により香典、供花、供物等はお心だけを頂戴し伏してご辞退申し上げます。  
又勝手ではございますが、身内のみで静かに故人を偲びたく自宅へのご弔問も併せてご  
辞退申し上げます。

生前、父と親しくさせて頂きました方々誠に有難うございました。

種苗業に生涯を捧げた父への敬意と感謝を込めて。

宮城県刈田郡蔵王町遼刈田温泉字小妻坂 75-116

令和五年三月二十二日

喪主 太田 清隆

### 全苗連・苗組の行事予定

- 3月5日 宮崎県長倉良守氏内閣総理大臣賞受賞記念祝賀会(全国山林苗畑品評会)(宮崎観光ホテル)
- 3月17日 林業退職金共済事業運営委員会(東京駅大手町カンファレンスセンター)
- 3月17日 林業薬剤協会第2回理事会(学士会館)
- 4月11日 全苗連生産者の集い実行委員会(和歌山市)
- 4月12日 全苗連正副会長会議(和歌山市)
- 4月17日 令和4年度全国山林苗畑品評会第3次審査(全苗連事務室)
- 5月12日 令和5年度全苗連理事会(ホテルトホポリタニエトモト飯田橋)
- 5月26日 令和5年度全苗連通常総会(ホテルトホポリタニエトモト飯田橋)
- 5月31日 林業薬剤協会通常総会(学士会館)
- 9月5~6日 第7回全苗連生産者の集い(和歌山県「和歌山城ホール」)